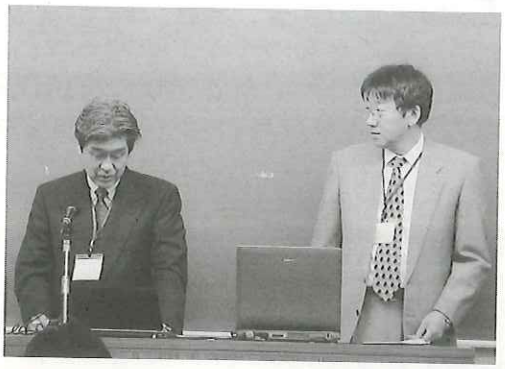
口頭発表「豊かな心を育む学校飼育活動の取り組み」

大木一彦　折原浩之（担当　埼玉県獣医師会　戸谷達彦）



１　学校の概要

埼玉県久喜市は，県の東北部に位置し，人口約７万４千人，小学校10校，中学校４校の田園文化都市である．東京都内への通勤も40分程度であり，宇都宮線と東武伊勢崎線が交差する便利な要所である．本校は，児童数492名16学級（特殊学級1），教職員24名の中規模校である．

２　学校飼育活動の概要

青毛小学校では，飼育動物とのふれあいや世話を通して，子ども達に命の大切さを含めた豊かな心の育成に取り組んでいる．（図１）

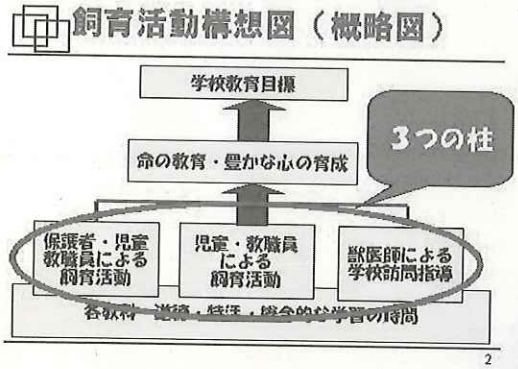


図1　飼育活動全体構想図

現在の飼育動物の種類と数は，ウサギ７羽，チャボ１羽，鶏１羽である．

平日の世話は，朝と昼休みと放課後の３回実施している．朝と放課後の世話は，５年・６年の飼育委員会の児童27名と飼育委員会担当の教員４名でチームを組んで飼育小屋の清掃や餌と水やり等の活動を行っている．昼休みの世話は，３年生以上の児童と全教職員がクラスごとに１週間交替でローテーションを組んだ活動である．

土曜日や日曜日の世話は，教職員と通学班の親子で年間のローテーションを組んで実施している．

清掃活動を終えた児童たちは，ウサギとふれあったり，チャボと一緒に遊んだりしている．清掃活動ももちろん大切であるが，その後のウサギやチャボとのふれあいを第一の目的としてとらえている．

放課後，帰りの会を終えた児童が飼育小屋に走って清掃に向かう児童の姿を見ることができる．

清掃することと動物とのふれあいが相乗効果なって，一生懸命清掃したいという気持ちに変化していく．これは次の児童の作文からも読み取ることができる．

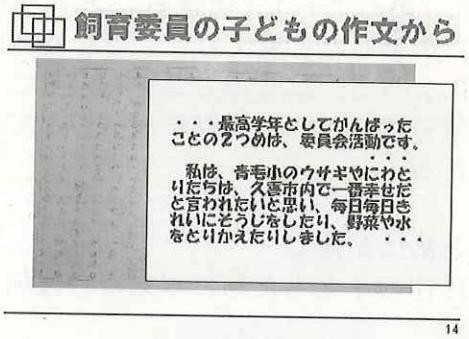


図２　児童の作文

写真１　飼育委員の活動のようす

学校飼育活動に取り組んできた成果として，飼育活動に取り組み始めた当初は，きつい目をしていたウサギの目も優しくなり人が近寄っても逃げず，自分から近づいてくるようになってきた．

友達関係に悩んだ子どもが，コッコさん（チャボ）に話を聞いてもらいすっきりしたという事例もあった．昼休み等に飼育小屋にやってくる１・２年生は，ウサギの抱き方が上手になり下ろすときには落とすことのないよう気を遣うようになってきている．目を輝かせて，ウサギが穴を掘る所を見たり直接触れ合ったりしている．

写真２
うさぎとふれあう１年生

飼育委員会の子ども達は，まさに親の目のようになってウサギの世話をしている．先日，パピという名のウサギが病気で死んでしまったときには，委員会の子どもたちが涙を流して悲しんでいた．一生懸命に世話をしてきた小動物の生と死を経験することは，命の大切さを体験する貴重な機会でもある．

3　動物飼育と子ども達の活動の実際

(1) 飼育動物の種類と数

ウサギ…７羽，チャボ…１羽，鶏…１羽

(2) 子ども達の飼育活動体制及び内容

①平日（図３）

児童と教職員による飼育活動

月～金曜日（1日　3回の活動）

時間帯	朝	昼休み	放課後
担当	・飼育委員 ・教員	・3～6年生 ・学級単位で1週間ローテーション ・教員	・飼育委員 ・教員

3

図３　平日の飼育活動

・飼育委員会は，５年生（２学級），６年生（３学級）で組織し，５年生は１学級から各６名，６年生は１学級から各５名の合計27名で活動している．

・飼育委員会の担当教諭は４名で指導している．２名一組になり一週間ごとのローテションで進めている．

・昼休みの学級ボランティア活動（３年生以上）は全教職員で担当し，２人組のローテション（１週間）で指導する．

②週休日・長期休業日（図４）

・週休日は，通学班を単位とした親子飼育ボランティアと教職員及び地域ボランティアによる飼育活動を行っている．

・長期休業日は，飼育委員に加え，児童から飼育ボランティアを募って行っている．

保護者・児童・教員による飼育活動

週休日・休日及び長期休業日

活動日	土・日		長期休業日
時間帯	午前	午後	午前・午後
担当	・親子飼育ボランティア ・ＰＴＡ地区担当者 ・地域ボランティア ・教員	・親子飼育ボランティア ・ＰＴＡ地区担当者 ・地域ボランティア	・飼育委員 ・教員

8

図４　休日・長期休業日の飼育活動

4　獣医師による学校訪問指導と連携

獣医師による巡回指導が年３回計画されている．そのときに，世話の仕方や飼育動物の健康状態，えさの種類・与える量や環境面での指導助言を受けている．

写真３　獣医師による巡回指導

また，日頃の観察の中で具合の悪い小動物を見つけた場合は，すぐに獣医師に診てもらうなどの連携を密にして，飼育動物の病気の早期発見・早期治療を心がけている．

5　成果と課題

(1) 成果

・友人関係に悩んでいた児童が，ウサギとのふれあいの中で，心の安らぎを得た．

・ウサギを大切に扱うことで，学級の中で細かなことに気遣いできる児童が増えた．

・ウサギの生と死を経験することで，命の大切さを感じる貴重な体験をしている．

(2) 課題

・昨年度「親子ふれあい広場」が完成したが，もっと広い「ふれあい広場」があるとよい．

6　おわりに

今後も教職員・児童・保護者・地域と一体となった取組を継続して，子どもたちの豊かな心，優しい心，人の痛みのわかる心をそだてていきたい．

地域・保護者とともに

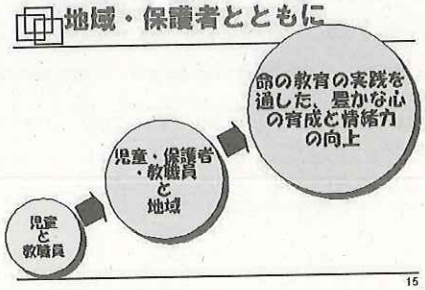


図５　地域・保護者とともに子どもたちの豊かな心を育むイメージ

（埼玉県久喜市立青毛小学校教諭）